

20歳の若者が思うこと

一月十四日に成人式が行われます。今年町内で二百八十八人の皆さんが対象です。
二十歳になった若者たちは「新成人の集い」を自分たちで企画し、盛り上げようと、十一月から実行委員会を立ち上げました。実行委員のメンバー二十五人は学校や仕事の終

わった後に中央公民館に集まり、式典の打ち合わせやアトラクションの準備を進めています。
そこで、実行委員のメンバーに大人への第一歩を踏み出す二十歳の代表として、成人を迎えて思うことや考えることを聞いてみました。



新成人の集い実行委員会のメンバー

「二十歳になって思うことは、自分の行動に対して責任を持ち、周りで悪いことをしている人を見かけたら止められるような大人になりたい。」
「学生なので、親に頼ってばかりで、まだ大人の実感がありません。」
「思ってた以上に子どもで、大人になりきれっていません。」
「親に買ってもらった晴れ着に負けない、心の美しい大人の女性になりたい。」
「時間を見つけてボランティア活動に参加したい。」
「親元を離れて自立したいと思う。」
「決められたルールはしっかりと守りたい。」
「選挙権が与えられたので、選挙には絶対に行きます。」
「お酒を飲みながら、友達のことや恋愛の話ができるようになりました。大人の仲間入りができたような気がします。」
「阿久比町について思うことは、ずっと元気な田舎の町であってほしい。」
「ホタルの住みよい環境を守ってほしい。」
「暮らしやすい町です。」
「女性は結婚してもふるさと阿久比を忘れないでほしい。」
「一年に一回は大きなイベントや祭りを盛大にやってほしい。」

「阿久比に生まれてよかったです。阿久比町大好き。」
「ほかの市町と合併せずに、阿久比町独自の住みやすいまちづくりをしてもらいたい。」
「山などが削られて、通っていた学校の周りの景色が変わっていくのはさみしい。」
「お年寄りや体の不自由な人が住みやすい町にしてもらいたい。」
「下水道を町全体に引けるように考えてもらいたい。」
「社会に対して思うことは、政治家や会社のトップに立つ人の言動には、うそが多い。うそのない社会であってほしい。」
「年金の制度はこのままでいいの不安です。」
「税金を正しく使ってもらいたい。」



20年を振り返るスライド作りをする実行委員